

新編江左志
午

寺院東寺中之神社



三木山善神寺 沢雲坊上ち未 日下ノシヤニキ

萬年院春思也

榮松山西蓮寺 法花院延未 国泰 極一翁

西蓮寺 一白山東未口右

吉慈心大松寺 沢雲坊上ち未 日下ノシヤニキ

元八相列十至少行實本乃所著也

有歌山高義寺 天台空林集口右

お志是寺 あく儀物度 つと

沙國の事は つ日福ちま つ

大重慶 つ三福ちま つ

仁宗寺 つ つ つ

旭年文 う修山佛庵 はなは等古法而直氣行
行ふ三十七年九月十一日傳乃はスモ自テ形制レテ本寺
ナキニ徳乃頃寺カ作寺トハ達師命又天子御寺モニ
南朝ノ運はキヤハ道ノキ多の市奉全寺ノ最勝堂

名院院ノ後事事の少とすぞそそぎに後衣廟と改名ムニ
因學院を正式大統及相列穴院ムセキ東院地一或
然の名古野勢列二此浦川よ御中ノ無也天子御事と名不ム
ナは立敷和モテモテもテ也と名を仰る御中名敷浦
多くの所立敷の天子と有ひアマサ名寺カ有て云承年
行持院ノ御中ノ御事と有て御事と有て御事と有て御事
行持院ノ御中ノ御事と有て御事と有て御事と有て御事

浦中ノ御中ノ御事と有て御事と有て御事と有て御事

怪ひ了旭辨敗者と称す事も後裔ちて亦多う有る

伊良屋山本福寺 玄台山麻木の御園院彦政長慶法師

頬風寺 佐喜多山 中野口

寺門山五郎寺 辨の端少佐妙子寺の不圓心弘禪大和尚

赤羽山林泉寺 岩上寺東門町因心和蓮社達菴主人

佐大山那王院主の公徳院吉宗 中野口

宝源院大作寺 智叟院末上寺院中野向用山行持院

佐奈山正泉寺 の佐吉寺の辨通院少林寺主

佛日山東禪寺 禪宗物語集写二十二卷

表記 長野

圓心靈壽寺大聖高僧鑑禪師 守宗肥前守祐良寺主

寛永二十一年七月廿七日延命二十三齒者之麻布老爹

寛永八年平山四月孫ト之塔院ニ虎威或ぐる海土禪林

八額院ノ朝鮮の東禪乃翁の額を主とせんが麻因入寺

あきハ僕と書をとどめて南廻乃道主の日付十二枚書て

贈る一年十一枚完書しと見え二枚の因一枚残して

残り八枚主のもの及びモ内うち一枚之うて是と云ふ

額の形あくまゆりの絵額の舟を下廻の舟の舟同舟十二年
見ふ書ふと額の舟と日ひたゞと筆者感想
とく實ふ舟と筆者とて絵額人の筆の筆舟用ひ名作

久留寺 東山社主

今朝の近事と智慧度未すら井岡山深谷より

丹波の宿泊寺塔主井岡山蓬社西卷と通じ和尚
善金寺院寺門因之僧天を智金主一人至立觀音
立水の年乃立水年四頭の脇の庫左高右低と云はる
内

御子と大字の朱筆と二月の裏寺金リハ正觀音とを、達と入
きて北派は柳の刀船と船主と船主と在を威取
立水の年乃立水年四頭の脇の庫左高右低と云はる
クニ男の良友達かと云ふ年少のむき牛氣と船主と云ふ名手金を
乃度鏡をのぞとてひつて立水の年乃立水年四頭の
立水の年乃立水年四頭の脇の庫左高右低と云ふ名手金を
立水の年乃立水年四頭の脇の庫左高右低と云ふ名手金を

聖樂西立水セ實 猪羅表後神御室絵額鑑定
トヨリ

當寺六世一卷二十九

此言之矣

天王寺・自林寺・門塔寺・中町・馬頭峯能高寺・新地

通天妙教寺・上院寺・下院寺・入樂院・讀諸童子布

法學院・院門・門・山門・圓山院・圓智院

至天江院・天主院・天元院・同化院

鬼藏院・帝林寺・經藏院・法華院・門・左院・右院

船原院・圓滿院・門・左院・右院・門・山門・圓智院

玉風寺・門・左院・右院・山門・圓智院

天寧院・南菴寺・門・山門・圓智院・不圓院・圓淨師

於菟院・萬葉院・吉之院・福院・不圓院・圓智院

妙空院・圓通寺・經三利院・東方圓通院・圓通院

二世天童・慶長院・圓通院・真言院・圓通院

本秀院・蓮子院・法正院・圓通院

池室院・大圓寺・塔主院・圓通院

因度院・淨源寺・日香院・院・圓通院・圓通院・圓通院

和尙院・古行院・院・圓通院・圓通院・圓通院

乃見松川むすにわゆきより野と芋の村のなかへ行ひて
まふのうてうしをすゑてくままでまくまひめうてすども

ゆくかをきしもととすまうつてくまふくくアシムニシテ

乃向きのへしをまどりとまうもあひまくまひめうてすども

算 算ふかすともの月日か書延の延ひむとあひま

ケレゴとくらのんやだまきのせむるてのむすきうその

白鳥がのきてちるやうはまむむすは圓山屋齋のえ

乃家と西暮のゆへゆてひきうるまうとばのあひま

ふかーたをまけーだらよひすまのうみのまよ代やぞ

むかーとつむれとえとあむまうとくまが春柳えめ乃とまづ

ちとくと墨あとほまととくはそのの海とすとまきうし

月あの花傍 うけふと金 けうづせ月と引ひてうての月

をくふとあすとあすと月と眼下かくじ桂玉ひむとあすが紫

えとむすびすみ

年月ふと筆院 梓ぬま高可園山林房和音

高可園 一章 二章 三章

莊嚴寺 旧本末の用事祐徳南と小寛の本末を

勝ちて本家寺工を了す

神王寺 東本荘町用事江口は師

極喜山西の寺碑もまつて國山一寺韓曹大和南

妙莊山東王寺法善延まつて口乃ノニサキ

白雲庵 口前

三里山淨因寺智恩庵あり而國山法善寺の 魚籃觀音
あ寺やその磨佛の用ひは是より圓乃古善惠のより

魚籃が近づきしとすりあきるど自立年中少因應の如
法の初はすて碑もすて於てにナ御玉宝也 仁多沙室少尊
藍寺と書くへ候すえ 魚籃觀音即身寺す妙金

三四山魚籃寺本代が喜くえ知爾全少卿と云ふ者と云ふ
乃本寺魚籃寺本代が喜くえ知爾全少卿と云ふ者と云ふ
もと少卿のと御名はと候が本寺からもじりて少卿と云ふ

至きすよ馬氏あら老やどうもと云ふと多くて少卿とも云ふ通

「後きみのつゆくせのゆきあはすゆかみかひをてふ

御正月と申すはいつかと申すがての御正月と申す

おきと申すと申す事と申すと申すと申すと申すと

申すと申すと申すと申すと申すと申すと申すと

主領寺僧達觀院方丈。甲子年正月元日立之

妙門修心禪宗法師住持大德弘化和尚記

妙覺心空寺是寺。一堂而坐。下有臨濟

自無至大國寺。禪牛也。住持大德。同山侍

上人。中興。南歸。南歸。

能傳心。住寶華。曾見曉東。同山侍

上人。中興。南歸。南歸。

曰。門庭乃大和尚。

玉王心福昌寺。天台城隍寺。本以不羣而壹。智信而壹也。

空相子。在往古。以。海。氣。少。生。淮。縣。門。寺。風。水。移。空。人。毫。髮。萬。丈。

至。通。山。道。江。寺。智。信。居。寺。門。不。用。門。是。空。念。上。人。親。達。壹。

般。舟。心。頌。生。寺。曰。曰。未。之。歸。固。山。繼。達。誠。大。人。

曰。照。子。光。不。光。寺。曰。未。長。庵。名。白。圓。首。天。玄。空。叢。和尚。

寺。名。玄。應。寺。法。尼。而。禪。寺。未。下。寺。歸。可。周。山。月。齋。大。僧。都。

移。殿。不。亦。可。小。立。一。心。寺。半。九。丈。一。別。而。那。如。而。而。

引。于。中。右。開。蓋。登。白。雲。上。人。此。若。之。乃。日。那。年。一。度。萬。佛。

万松山翠谷寺碑文。大中丙未。主。萬。固。和尚。

往古麻布川左近年中罷作れり。あまは浅野家より
善後可く。かほにちとをと初め寧々乃と土乃石なり
えどしてみどりかんとのをとつう御子す也。

改官山田屋宇大日院。工部主。因所。大仏。因心。本食。
但當乃自心之意。先事二つ建立。石に生一丸を以て。石乃
地あり。ちるか。形の如く。うづめ。す。は。能の石。従者
に。是れ。多。そ。少。但當乃必。づ。但當。ハ。物。別。多。事。ト。レ。テ
妙。事。也。

佐野山西観寺。暫思院。寺。う。山。因心。公。參。上。人。

想懐。山。西。觀。寺。常。興。寺。上。寺。主。上。寺。主。藏。

因心寺。後始

中。紹。寺。自。心。繪。寺。社。唐。甲。室。青。面。金。劍。ハ。既。近。之。

天保二年。心。千。百。萬。十。年。ハ。

文。武。天。皇。太。富。元。年。辛。酉。月。唐。甲。日。以。て。於。朱。四。天。室。

か。浮。像。一。体。多。千。頭。大。主。乃。住。宿。及。改。今。修。造。立。新。佛。範。

感。得。乃。序。と。自。う。形。刻。勅。令。禁。一。圓。一。字。乃。仰。

三。篇。と。述。立。し。は。序。と。本。年。一。ま。も。番。初。將。勝。乃。是。篇。

左玉乃南門外西下町は細々道ちく高臺を有す乃る

餘ハ首日便都才のむち櫻元一日形刻を而乃る
餘下にて音柔身多年少才之多至しとぞ

南も高也ね石井一弓橋は音經^{十七}石築^{ナリ}むく若

持^{シテ}乃亭^{シテ}天井^{シテ}天井^{シテ}とあらす御向^{シテ}や其葉

乃源^{シテ}寄用古生代石一枚は木板五段^{シテ}曾^{シテ}臺
源名^{シテ}因^{シテ}序^{シテ}方^{シテ}本持^{シテ}得志清

元朝^{シテ}吉原^{シテ}常光寺^{シテ}瑞^{シテ}未^{シテ}よす

國方卷上人^{シテ}妙^{シテ}居^{シテ}妙^{シテ}方^{シテ}金海

赤鹿^{シテ}重櫻^{シテ}左子^{シテ}國清^{シテ}て^{シテ}近^{シテ}左^{シテ}通^{シテ}ち^{シテ}高乃
而^{シテ}鹿^{シテ}往^{シテ}古^{シテ}重櫻^{シテ}左^{シテ}辛^{シテ}ひり遠^{シテ}と^{シテ}通^{シテ}ノ^{シテ}私^{シテ}の場^{シテ}
乃^{シテ}西^{シテ}カ^{シテ}國清^{シテ}總^{シテ}今^{シテ}方^{シテ}手^{シテ}ほ^{シテ}と^{シテ}年^{シテ}ノ^{シテ}那^{シテ}害^{シテ}私^{シテ}之^{シテ}事^{シテ}
宮^{シテ}と^{シテ}不^{シテ}直^{シテ}改^{シテ}今^{シテ}して^{シテ}持^{シテ}し^{シテ}行^{シテ}か^{シテ}後^{シテ}元^{シテ}曾^{シテ}年^{シテ}
妻^{シテ}一^{シテ}金^{シテ}號^{シテ}字^{シテ}と^{シテ}此^{シテ}處^{シテ}國^{シテ}行^{シテ}か^{シテ}後^{シテ}之^{シテ}家^{シテ}川^{シテ}果^{シテ}
云^{シテ}是^{シテ}泥^{シテ}れ^{シテ}あ^{シテ}房^{シテ}大^{シテ}水^{シテ}向^{シテ}が^{シテ}ま^{シテ}ふ^{シテ}家^{シテ}川^{シテ}果^{シテ}

右^{シテ}多^{シテ}事^{シテ}移^{シテ}列^{シテ}事^{シテ}の室^{シテ}と^{シテ}と^{シテ}と^{シテ}と^{シテ}和^{シテ}程^{シテ}

をつよひてとくとくまゐる年の暮れ十九日はあつた正月の初日也す
平成十九年から二十一年の歳中十日といふあつた正月の初日也す
志士の事合はるに靈廟拜顕は既の奉物ナリとまふ所へて
乃全然スル事無ゆゆく様をよきんとの御活取在所の者妻
玉と川連と五段の事と及黙のうとも争ひし事も餘り
移すをもんとて是は僕が死んで麻衣子は、志士の事
而も萬一難翁が死ぬれば一經極の間を以念せし事にて
二月七日正月小危難と名を羅敷ち思ひと付すと遂と
出きる所と様子と云はば子孫の持体へりとま頃、又故
久松也當てて獨社と云禪僧由舊有てはふ乃定
月上人ら多附一寺居上人之靈也と帝をち燈
あらびの年と大附と大僧正と自号を冠てはたか院へ
下へ歸るをと云。其ちニ度無事も詔記とある年後
は二度多もハ義行と義海相列の事。御竹生寺
を創建するもと云ふと云え年の頃圓山左春江と人にはゆく
徳川の王室の威儀で義海が寺方を勤めしよもま

惟萬事ニ世至天アノニキアノ御事御津風ト造舊先
モレチ奉源と仰テ松ノ木乃石のうらとといひ是と
シハ小白蛇ニ似テ之神靈也シト感レシニ
古事記ノ末ニテアリテ其事也國レシ大格ミト
御石石也ト造ル蛇也の如ク理ナ附じ石矣ト理
ト等トニテ本社奉教を造立來年ト候ガ
望向堂ヲ當候先セキは眞年也乃後室而至降ト
慶也ニテ神社神主入印乃知ト造立ト作祭

右乃所希メ天ノ御ち有信乃理被方後は神ノ義停車
ヨリ多々取引一往レの御嚴穴御主事一七日猶猶モニ
或時法源亦テ君叢臺乃中御座也ト其御事也
ト幸少齋元セ免リモ皆玉縛ノ等多モニテ拂
ヒ無事カ又外レニ勿れム却て是モニキハ千性本
心ト高形也乃理由もと候ハアリト然也モ今江
乃爲解說也ト御作モア是ハ須クニモ也ト深也
カ全身白鳥乃御生也了實也神事也

國の行生活多岐たる事一弋乃才子の來會と西廻順化の
中年生活を嘗てゐるが此の行生活はあらうともいふが
向こう小城乃清よりゆかを頸と通じて手と袂ま
ちと食事を花洋たる般の東小島から始めて初して手と袂で
毛とアラシ籠環せし行へ風典せしものニ市才子才勝素
性アルトヨリ外國の物をつゝと併せて除密して内定今
乃希モ乃はソノ間じそを度と竹生院寺ヤ天光妙作寺
寺の玄關うや神は天乃事は社會の變化との如
生シテ乃白蛇と現し或、本行脚とテ神天と蛇を是
則至終乃は汝をすく事無事の事。

殊も洋の既齊多寺、降天童板と云ふ事
國王五葉大師の三番家承をすすめに於て本上院御室
久九百十室中興國山頂清涼寺を立ち成る古跡ハシ
室ヒ乃其礼庭と今少ちとも。至于御室院は御室院
首守大師也。以テ清涼寺首守大師乃自身乎。永隆院
六月七日形制とみりとある事は義理と傳へて行脚の

聖子也が不義武の行ひ事に聖子と稱也

孟安祖世奇而後記聖武帝寧夏西漢紀二十六
傳書墨縗記和荀義盈墨縗起立作于宋祖
齊年丙辰之歲年十月猶然以居處之名以之而
聖子也之說世奇之於我之子向之曰「是」
去聖武帝之歲而作傳序之于聖子也之元德既落
小刀魏高祖之行念之往來也也執劍至乃子
後之猶工不以故之從多之在於聖生毛之時則聖
夫子也之子之傳於聖子而鉤留至也之子也之作
終之又人也之子代號翊天聖之位故源之子也之聖子也
傳書之聖子也之子也之今為軍少校也之子也之
至也之先也主也之聖國之後也傳書也傳書也傳書也
聖子也聖也傳書也傳書也傳書也傳書也傳書也

據聖書子也神人也之三代傳武帝乃御也之孟安祖
白列何生之也傳書也傳書也傳書也傳書也傳書也傳書也

孟安祖孟安祖也傳書也傳書也傳書也傳書也傳書也

本堂を以て列行生の爲也。日午時過て後夕晴り
まく。御宿泊。源空院をす。益覺不思心

也。是處性空院と感得乃至侍石船原旅記す。

予歸之本堂。天台高祖門左行也。上高祖

界西寺 因曰東界

應空寺 淳智圓院。至高祖

法蓮寺 呂 因福寺 つ

雨露寺 藤院。釋名。二高祖。圓寂。宣揚弘高

魏高祖

海空山相福寺。法空院。應空院。因曰福院。參入

無量山頌性寺。法乳院。祐祐院。因曰福院。參入

高祖寺。高祖院。輪滿寺。此山名也。因曰高祖院。參入

四國山。貞元院。弘教院。至牛四院。三祐院

。野牛山。太刀神境。高祖院。參入

全集。弘。口傳集。不因。充卷六。

續智覺。寔真寺。因天德寺。未。因

首尾參々たるは、御起日作ひを唐へて大師乃祖にて御靈乃
終極乃むすみ而西の未申て、ゆえに白蛇之圖也。古
事記卷五等の合併の光明院を、者ふ不頤者尼
也。是よりとて、よのび顎頬と、如斯空海ノ如也。
長祐山義教寺、はたゞ東方北つて國の昌山也。
塔ひ四丈、爾室西南、あちの因願、寂院か莫(マツ)一蝶の
墓焉。享保九年甲辰正月十四日没年七十有七也。
オミシハ、もは生世のよきからりどくも
仰ぐとや月のうす玉乃ぞ。

因は一蝶の莫氏而姓多智名、信直字、號士氣也。意
義一號、一蝶と又稱。妻是源氏、子、一均列ノノ若
門惟宗、師事竹野吉信、意匠通達、巧妙遂心、一派ノ盡
應。而年生別、一均列ノ子、姓を元緑年中故有、一尖
尾、亂流せり。乱流八年後、その死と著を後不敵ふ。行
て、海國を廻り、また角をとおして、つるを信勝と号、一蝶矣
聖長上席と號を二世源内と號をこそ。

後念の隆城寺 一向宗西本

古子傳教寺

了水山知行院

泰祐心保高寺 謹瑞源寺本末

立馬萬叶

圓心院高教和尚

正暦寺 一室山面東

二石壁

宣工行寺 法善^{百工}古石川本口不因日與土人

西法心圓真寺 門安鑑 東

口不因身觀日延久人

法善寺松亮寺智園院末口常因山走達也參二人

医王心唐集院 謹永嚴^主まつ石因^シ碑墨和尚 麻吉良

西^シ之^ノ寺^ノ神^ノ山^ノ主^ノ保^ノ多^ノ寺^ノ主^ノ不^ノ移^ノ也^ノ

承志寺^ノ志^シ志^シ院^ノ本^ノ口^ノ斯^ノ

松ノ寺 神^ノ者^ノ本^ノ口^ノ南^ノ相^シ志^シ

尼^ニ珠^シ天^テ瑞^シ宮^ノ法^ノ心^ノ和^ノ平^ノ吉^シ家^ノ中^ノ四^ノ十二^ノ歲^ノ正^ノ月^ノ丁^ノ午^ノ

僧^シ波^シ守^シ小^シ往^シ修^シ行^シ小^シ自^シ利^シ刻^シませ^シ行^シの因^シ度^シ能^シ也^シ士^シ而^シ相^シセ^シ一^シ力^シ三^シ九^シ乃^シ門^シ守^シ十^シ後^シ左^シ京^シ府^シレ^シ遠^シの

頃^シ少^シ國^シ立^シ師^シ里^シ之^シ叔^シ母^シ君^シ是^シ事^シ危^シ乃^シ立^シ事^シ此^シ之^シ事^シ也^シ

学傳等事。了了乃追述之。大漢名項故多。聚石室
山。乃家也。生平甚淡。家乃因稱。而有之。至
于事。也。世說。世書。卷中。有之。

附。卷之三

一。金上面

二。石樓

常游山川。擅ち活在。字。每。也。極下。用。日。春。工。人。
產布山。大。布。手。の。土。國。用。作。行。少。僧。都。日。遠。工。人。
舊。也。魏。多。寺。塔。工。亦。廣。高。國。富。友。達。社。寂。參。丈。人。

天。性。慈。厚。大。至。赤。 因。制。

既。通。山。水。不。存。活。化。多。經。業。同。不。固。上。日。活。下。人。大。德。者。
云。童。院。 工。北。主。以。若。以。常。不。能。知。之。以。不。善。其。術。入。廬。道。
乃。石。碑。五。

洞。生。山。高。差。年。一。向。亦。如。蓋。同。不。周。產。奇。產。一。許。
商。所。以。置。店。也。生。乃。而。可。以。故。而。穿。穴。也。隱。生。上。唐。今。少。多。不。多。

始。立。年。 美。來。 不。言。歸。

與。而。去。院。 土。而。製。世。音。 生。食。千。文。說。書。

至。故。帝。及。帝。及。之。人。一。朝。多。少。人。親。子。乃。仁。師。大。智。圓。乃。

是年正月乃大雪降と刻みて午半を一寸半の太西の
カ係と七和剣、西ノカ系を千千乃一子へ申せ奉る
也と程も正月夜は其の下に留まつて金錢の利益と
ゆゑのねを以ス。又其親世もハシモアリして往還來り
セキ居と深居せず、及一寸、少ひ工而鑿等と云す
乃は才の根筋と云はセど其食乃銀器と号を以テ半。
百過の間か未だと云師達列坐うち少事餘るゝ翁
翁至るは嘆息し乍ら歎半少半の内不思議の御覽
候候可不可と云はるゝ事無事也。之を以テ本
多と毛走立乃は近づく方進のれ事と連じ少ちん毛
翁本乃ちもとよりと面事と云ふと西乃經と謂ふ也
キニ翁のゆきと毛走立翁與大光身と於テ若老翁也
毛翁事乃ての事と翁度半生也。前にも其食が一
び二奇也。此後もうみうつてよしむかし
萬の堂先立物の角柱と謂して其食乃様ともう可
是處と曰ひを大幸也。今も又新入如くと仰る

千萬一中乃傳流是妄と考へ及の事無乃及乃下と號
號也二仰其主朝之刻し一仰其主考也而一仰其主
百事之爲國事結爲世之物成今之小役く作類く年
工西乃活と服也一之塔心一作之此本活字而後爲
活也もかく向左も傳乃考本主せ一才方ノ居と服也と
ナテ日ニ宗政ノ右方其像也

・左年少太子年 卫昇昇者高也 審首 刑性意和首

草門立國事活據三考乃因

・知福寺 賀靈度集 玄方所

天滿寺

一白木集

卷町

古碑寺

詳 程文集末 二首

・改元立龜頭尾訛序年 口四七五年 九月觀音寺

・大仙寺

曉

卯

・古抄年

八

卯

南向坐也。古老乃物也。不^{レナ}也。書之于間。不可。而
其事迫々。門下。至。而。力。放。手。と。筆。経。ク。モ。モ。

今。沙。子。經。所。而。以。故。善。圓。道。乃。弘。法。往。古。草。之。陸。之。
而。ト。里。人。凡。之。下。乃。持。乃。川。之。水。之。此。之。記。也。
而。圖。集。之。觀。系。圓。大。留。庄。之。所。有。之。制。至。上。而。集。乎。
往。古。以。四。之。大。留。之。之。之。之。之。之。之。之。
而。土。之。山。清。富。加。隆。山。有。富。工。圖。

訓。圓。集。日。人。曾。力。之。代。主。禪。寺。而。之。近。善。圓。大。留。庄。地。
進。及。其。草。於。自。蓋。深。草。之。

續。善。社。北。緑。門。左。神。領。立。石。碑。之。小。龜。四。首。多。牛。鑿。至。
名。勝。志。曰。永。亨。年。年。左。日。道。直。右。等。博。也。之。動。作。至。左。
列。序。大。家。紳。或。公。列。以。服。神。之。云。少。品。川。乃。結。之。相。取。精。為。
責。私。乃。社。事。而。寺。乃。結。之。之。

貴。私。神。社。南。居。門。結。之。神。領。立。神。之。終。正。留。也。
相。覆。神。明。牛。頭。天。是。少。少。子。之。天。王。之。稱。也。之。

六月七日维园奉礼书于维园

印藏社 南行門

小山 又大日山主之扁額也
印藏社 著者乃翁
方玉一先生也人乃翁大名而不知其號也
大日堂之碑也 真教が宗教の事と書一真教一ト
ヤツマツヤツヤ村を被子を拂れかむモシテアキセリト
今も通念道すハ皆ヤツトキニタニトハシモアキセリカニ
方の音ニヨモバヤツヒシトシテモアキセリトモ勢乃流
シキナホトスノ音首ナムシテバハモミテハシテアケハ
寺堂ノ西門及西廊寺漢子 仁和妙法院有道真庵
乃地トシハシム宣祖の頃寺院の多處ニモハ取次故心トスル
同源寺院之見記すモ九月上旬正門北廊下北側未免有
仰て西廊下ノモハト也 仁和妙法院ハ正門の外アモ
而モ名ニヨモ一書はた間アヘ等トテハ近セモ莫ヘトモ
書字ヌニ朝五時トモ書本書き再考せらば

書字ヌニ朝五時トモ書本書き再考せらば

経納のた ひ無事かまく 増玉の縁と縁年節の事
持てねまうせひすがよであ

行会乃村 中乃村の本山 西山乃村の清ちの御興業院乃村
村山乃村の改教ノ名村の石をもせひすがよ

彦居の松 齋代夕山の上山の西乃村通の海居石乃方かな
ねああもきもうぶそば松至夫うごく山ふく原木と
於又立葉日、キタル
無比の神社 みのいの海里を はうがよひしの原上

八余の經山と漁師大先と蛭くりふね古び遠度高志篠原

浦の丸の飯のたまゆりと段入江と紹和行了般ひ明祐

不もと多て而石とまつの頃くらかうとせふとと

東海道千里五ヶ村 まちの小山の海道近道ちは黒六潮す

あき放水加門とづかとほ流つてくべ

振子而春 縮れね半列惟山在すとす焉福ちスモトモ
不正福ち不穢系物

・ 類外經籍 王道古々うそ行あひと 石主の類於書字乃從
を留めず而と云はる者之の佛國法利とあきやて多く其

加給をもとめらる

朝吹ふるを おけた年事産を歎くるかの景 はす妙よこ
名生ふる東の山安徳へとく 休まひ在せむと山曾夷の山
川を活のり今川家に仕せふての子孫は お城ふるえま
モノアシテ はれりと多喜は御城乃様
おはあく井 おむきのゆふとと度ニテ四人一て穿す
二千文金竹モトカタ一箇ヒテヒテヒテヒテ

左刀合乃格 やかみりあつる 終等の御用御集乃事
とくがをとく帝仰テ ひはせ一車重モキサムモハ難キ
兵ひしのひせ一車と音ひへのそひたうち御立す御用
御書をかじてすと車てのき事モテ 又因みかづ前乃
きのれのゆ塙スルガと書べし初セガカルド石とある事
塙モタク食ねとて六萬の度モサ碑き一ね乃より
そのをちふ達

多忙の在處

東方水

年

足利

周ふる朝は庵和高陽考天應大現國師

寶永二年
五百三十

立國山鷺ハ御列也石不空三廟ケ年ニ義明乃東葉秋庭

典乃又元師太廟之主也圓師道一承延福和尚ノ才子也

西保ニて西年三月癸巳日寂春秋七十

壬午年也

國山麻布大きう石と生きの所ゆきらまづ昭文太翁の
乃石のうそも和焉の遠きうそを

百年石 庄市久母の木也

・・

・主政也 謙倉乃中郎主政也 壱西庵の内小室而轟
城の上に坐してうかひ居主ナリ一中十六也 義政に予先
ゆきうどふ空モリ寧モ乃ちハ清謙倉也乃ひもあきが主
と主かきてよしりあづ

・福事も清謙も 老兵もも未古頃在る つむ國三界御伴鷺
鷺山も不獨も サレ 本居正 舟行

・傳説寺 附土木口是因ふる天正二年也 ちやつ

・傳説寺 天正二年也 ちやつ

因山益覺大師用基從一跡山安泰寺

西瀧寺 一向布^{麻布}苦惱^{ハシ}未 〇市

彌堵^{ミタマ}光嚴寺 碑文傳來 之不圖中興宣山古碑師
中之舊碑右四道流走立道達好立

東志^{ヒタチ}而延寺 以通^セ南門^セ北門^{ヒタチ}之宗用^{ヒタチ}至延院日頃上人

自覺^{ヒタチ}海瀧寺 以東御生 南西門

昭子心^{ヒタチ}延寺 宝門^{ヒタチ}延用^{ヒタチ}不與太阿開^{ヒタチ}是^{ヒタチ}老嚴院下

高志^{ヒタチ}如延寺 以蓮^{ヒタチ}方^{ヒタチ}未^{ヒタチ}之^{ヒタチ}日付^{ヒタチ}人

玄相^{ヒタチ}蓮^{ヒタチ}延^{ヒタチ} 〇市

無目^{ヒタチ}妙蓮寺 以象^{ヒタチ}物^{ヒタチ}未^{ヒタチ}用^{ヒタチ}二位僧^{ヒタチ}日付^{ヒタチ}人

明海二年年二月吉日入藏

信王^{ヒタチ}山^{ヒタチ}延寺 〇のあり^{ヒタチ}用^{ヒタチ}日付^{ヒタチ}人

以^{ヒタチ}大^{ヒタチ}教^{ヒタチ}年 乞^{ヒタチ}望^{ヒタチ}方^{ヒタチ}福^{ヒタチ}未^{ヒタチ}日^{ヒタチ}不^{ヒタチ}因^{ヒタチ}山^{ヒタチ}畫圓和^{ヒタチ}而^{ヒタチ}壁^{ヒタチ}年^{ヒタチ}二院

以^{ヒタチ}今^{ヒタチ}山^{ヒタチ}天^{ヒタチ}妙^{ヒタチ}寺 〇該列^{ヒタチ}大^{ヒタチ}字^{ヒタチ}未^{ヒタチ}日^{ヒタチ}不^{ヒタチ}見^{ヒタチ}大^{ヒタチ}和^{ヒタチ}高^{ヒタチ}

你^{ヒタチ}度^{ヒタチ}山^{ヒタチ}高^{ヒタチ}寺 以^{ヒタチ}本^{ヒタチ}在^{ヒタチ}未^{ヒタチ}日^{ヒタチ}用^{ヒタチ}行^{ヒタチ}二^{ヒタチ}月^{ヒタチ}大^{ヒタチ}教^{ヒタチ}人

脫^{ヒタチ}國^{ヒタチ}山^{ヒタチ}頸^{ヒタチ}寺 〇是^{ヒタチ}日^{ヒタチ}月^{ヒタチ}院^{ヒタチ}階^{ヒタチ}上^{ヒタチ}之^{ヒタチ}不^{ヒタチ}圖^{ヒタチ}之^{ヒタチ}觀^{ヒタチ}卷^{ヒタチ}祐^{ヒタチ}宗^{ヒタチ}人^{ヒタチ}

高寺ノ馬頭須以と元一寺人 ち中二院

公讐 一皇宋皇帝

篠原少帝行ノ三昧寺 宝門派 父御まつ御 国山善景
不信寺 祇 卷門 功山寺主 崇禪

風風心妙幽亭 廣本京當善願寺 幸願院 穂石 雨露行

圓山寺目玉人 久國山日置より山門 二王寺 通鑑

桂古院ノ而方寺野乃花喜山ノ刀セラモー故宇佐神として

白雲山ト南也山御山子モ子毛作御山之雲塔今少焉モ

魚學院門寺平華門院正法三寶院宗門行 国山院大源政法

天保四年正月廿二年

子院寺 美惠院平草創

水月觀音 以ノ妙空 五子

法印院ノ而方寺御院地壇全ノ聖鏡寺海平觀院乃子院之而
四國乃は義門左末郡入坪領住西行之の其加世子至千五代

佛事ノ而方大東也と云近侍之應平十隱金於公上院禪

東之領入院五門ノ一院行元玉也代里之と至堂少くして

多うを南入金在於資利門と領を於齊序へ付後と伝シ一

すと建立を文明乃頃嫌棄於之後上院定ひの有余

えきまつたまとねわ和少破、國事たれりと破、少和田を
城下に余源主を南原乃小室甲列武田と破、少和田を
武田乃守主を南原と近南へ西川士多を攻め
そしの主と皆神社圓滿燒拂の住行法師もりどが
せきて西川主武田本多主者大恐れをして少和田
西川主守主をあやかえのゆゑと御も歎圓乃
よりあはすをさすを市ノ武田乃食甲列守の者が
多手と乞食の西川をうへて首の室乃壁乃上多手を起
て多手一寺りかづれくをあとゆうと御も歎圓乃
育子頃は守在太保野に守室塔母造りと高木守利
益多手乃水産を賣て御と美が御へて水岸又能
寄り少和田

六地寺 一審日少門主を防遠立

恭莊山口傳寺 以文嘉原主 五角院政石南河

少和田守 一審日少門主を防遠立

少和田守 一審日少門主を防遠立

少和田守

大猿のひ乃キトモセシテシ御子ナシナリモハシタ

乃ケ島ニ白堂乃活乃山一面アハタガアリテ松の森ニ年輪

因基年ノ時精垣至ナカニ。蓮華輪乃因シアレ

寺シテシテ列々附耳モセシテシ。總無石碑有リ

白象寺

鉢井

鉢井是九月住候。本堂下殿前小経堂上ノ石名也。三石

共く左き。右えの石乃西ノ活。及者仰。以本堂と近事。是左

蟹井神社。一名鉢井。傳別音。舊之玄巖院作ヒ音。舊

號矣。名也。石秀。云蟹井神社在京都五代入付乃通之。ハ

於う事。小榜上稱を或古記曰。左近郡蟹井神社至四十年

立本二年。延喜二年。至己酉年。太政令。合之。

社邊有蟹井。引之。左近有左近御門少子洗井。布人姓

朱車。二古門。如。左近御事。乞。所。病者。百之。其。功。院

知。神。左近。第。中。神社。是。社。少。少。御。門。社。主。多

中。活。度。ト。化。免。シ。ア。加。手。行。役。と。用。シ。信。レ。ダ。ト

一月廿四年正月廿日午後五時至八時之花燈巡行

佐藤社社頭石神公則其事如前叙述云

惟予盜行至高野施事ノ間並石鐵牛金毘羅神情

皆作石造矣然今ノ年乃第

二年春日自詮

立年未滿也而此役亦固以盜行下盤井神列於吉社

終石造は行大字ハナリナキ者甚希化乃可

之もとうふを吾於乃處トシテ妙子小玉

遠近流傳日來社頭石神公則其事如前叙述云

至ト云々由氏源人奉行之役事靈祐致恭燈神

意忽々森樹附根木理神威餘韻

翁齋

佐藤乃理之

不盡其狀

之故

或有仰仰之十二字云々乃作之の事乃至一西

之うやうつむほんとん

主事ナセ

主事原行少翁之風小

山中之風也

佐藤撰

山中之風也

山中之風也

山中之風也

左井

今ナカニ里半村主千五百余石大村

日主

空ノ御事。お室、一向立考。痛きと坐墳月上。あきらむ井
やう東海にてて足ふ。用字をもつての代う。や。事と
お井。お水。お村の名とす。

・ 佐野社 王福寺。神明社。口村。稻若社。口村
・ 善作社 つ村。赤松社。口村

・ 佐福寺 五云。是遠平。德永松。墳内五
社古。孤原。櫻谷。高ちんといつと

・ 光福寺 一白堂。玉木。口村

・ 雨光寺 口無堂。口常。大井様。口堂。口常五
社。立石。方證。左右。山。山。額の。大き。名。手。御。り。老
あ。と。御。今。ハ。故。ま。く。御。と。い。キ。御。る。三。五

・ 陽福寺 潤。徑。傳。寺。ま。口常。稻若社

・ 清傳寺 つ。岩。河。大。寺。中。口村

・ 銀玉寺 つ。口未

口村

・ 帝林寺 天台。御門。帝。以。寺。未。口村

・ 入石。出村。井。の。迎。益。石。一。圓。二。村。京。也。
イワヤマギ

是事を以て門司守吉西守へ手簡百石 千本ノ念上

用山見送りの因墓日朗子の 令官牛代張支

院は毎年牛延立祖師公寂奉祀之地に遺骨安置

山前

西子祖師御死後は上人乃比祖師在世乃

ちもやう利ひて

而山付地。往々委託祖師奉

者よ埋葬が遺物自身を除く。すれども予半論者梓
自多の帳。自生の消息甚多く。上人不朽の松枝
因キア蓮工んアエ。多喜慶賀ふべ。匂子アモロ

あの。あら乃什物也。山門は主の墓也。往古八百年前
師少主の高祖廟主あるちノ日蓮が仰り。少安
事放はに主と音手山内へとあ

但師堂。長宗。本門寺。主額。而後宗院堂
ある。同东者西方株塲。宇喜門府。宮中と云者の
集会。え組。上人の房別小屋。乃は。而して誕生寺等

おまえ。而の房別。源金。室了頃。品門。三教所。て
おまえ。而の房別。源金。室了頃。品門。三教所。て

ひだりまほの秋送にまづまゆと千履を起ひとす
あらわすと作ふあけもすとまうかとあらじてすと
あせうやのちほもんあらふ古海乃四院五

ちる祖師の氣のせあけり往く乃む日櫛上りの寺
まも

南浦 日興上りの寺とす

圓覺院

日朗と人の寺

覺慈院 日朗と人の寺

正にテサカニギル 相傳くえは承か年九月ハリ身延下
山してナリ音山後り作と曰ひありヤフニ且於寺を基め

高圓院

日朗と人の寺

覺慈院 日朗と人の寺

今古皆乃地モノ 一径を望む塔がねはと酒と香
心と本筋た爲つて祖明はふのまか代にじととひ日延
御まひて在寺當てて引を帝た爲め祖を乞ふ

圓覺院

日朗と人の寺

覺慈院 日朗と人の寺

武夷館才た、後うち多院あるは承か年九月十三日
武夷館五都以上二石萬石仲うをすて近代の年六

十六歳の心工手を高仲が宅の傳ひ

日興上りの寺とす

千本池 同前

百丈院と所傳大中和院

日興上りの寺とす

黒門と首はひが大蛇玉是と七面を奈ル也心と限リヤ上と
御村トヒトモ御庵村トハ申

日達櫻樹松千本ヒテ行ふ至

心上神社 心涼羅記云神名帳云望多郡今本音
坂道立心上神社事も少ふ心上山門寺境内古之原の
七面乃社是往古乃池上の神社也

追加

新田光明神社 在京郊矢口

新田義典乃而無社 ヤマウの流か麻所川口本立山義典
有モ 追至ニ年春二月宇山崖碑縫と走、脚元^{アシ}打^{キツ}乃
採、鷲石^{アシカ}書乞其碑縫と考フ之義典、たすれ御自
廢子^{ハセコノ子}元年十^{ハチ}月^{イチ}日^{イチ}御列御宿を留、圓清入道^{スケ}入^ス
幕下乃士行乃右京毛良衡乞^ス之義典^ヲ奉^ス、^カ又^ス
ひテ^テ遠^ハち充實經下野^ヲよ^リて^テうら^ハむ十月古

至真武年上野常陸下野乃士^ノ時^ヒして^テ御列^ト奉^ス
ス朱^ヲゆ^リ渡者十人^ノ之行^ハ承^ム也付^ム亦^ス敷^シ御

安江のア乃兵五百余丁は兵百卒拂口か伏掛毛を安
島に上り了事と拂毛を手後にテノ兵四百人として十
月十五日拂口毛の向舟の近處中流にて雷電晦冥
水の音清て死人毛も陽死毛にテノ兵大半毛を幽ムアセ日
中て血毛トキト卒毛拂口民毛されと歎毛ト立トテ拂毛
逃毛を今ふ至リテ四百余毛トアリモテ、迎世島毛掌
毛造宮而テ社既魏ムトテ社神國すく年作乃
毛賊御と毛モ

・十勝社 矢口ト吉野金六毛方毛 招作ヨ新田而真矢毛
松牛毛テ桂丸乃加リ延源一ト毛ビテ十人乃是テ毛毛由不謂
毛鷹田石子御井ノ源毛志大毛因防毛毛井ニ源毛延布川富
毛良兵仰川村毛利源口大帝毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
・日向武毛神社 因御 源毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
・毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
・雪上說亭 真福寺 口石 里後毛毛毛毛行毛毛毛毛

ノ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
ノ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

音堂にて儀麻うと燒き念佛とアキラか雪輪うり放共
銀世音と雪上乃銀もとやがめ今かは故ふ東奥乃龜と
銀世音とまこと

左近寺 佐古源金光門ち東村吉村香ノ照也

あらもも山齋山門を以テ遠江行乃左京毛多墓
あちか生は余と月々毎ち十月丁酉所

医王室す源東光房

天保四年正月廿六日

・

右門薬師 右門左門村利高密來登寺

墨源延曰人曾四十代え昭和元年春以至がす

國東下角乃木森古川の事と云者子安チ事と歴ニ事
と花病モ一と傳く丸の事と云ひてかくま以基山樂ふ由ア
ソロ改付由と申る以基佛の苦と得と教と公ゆ不老乃成
其の事と銀杏乃木本立基龍山御堂モ此か是と傳て
香木し六丸はと申すと教か假セ左主と切アズキハ満て
靈氣を乞ひ急ぎ奉神寺を立あひ少少乳山御ふ切ミ
左年庚午先リ何う信人は怪て以基山樂主を不和ハ爲シテ薬師

本來ヤニ子の後継を假んと爲善と申すたゞして薬師

は尼羅西一刀ニミシテ木金ト走リ外モト本陸
東支那と号を和銅ニ度ガ年號ヲ子治天皇武帝后
曾子酒ま乃ハ少乳也。以是基トホト乳母の器也。至空
立麥列左門村某師ム浪吉トシ。寄附也。が乳也。往
むも奉毛少乳明也。浪吉トシ。室の左本植諸
室も悉立ト。一國王山せす。此を參幸ス。事也。はる今
浪吉ハ。左門ノ樹々々カキ。冬至の日。王加賀令を解行
をと。し。哉。若野地名考。云。在奈郡六領左門村
と云。而の主院。北地。上。右。門。寺。乃。南。小。道。起。考。う。延。左。大。幕
ス。名。と。つ。ス。も。言。ふ。也。ス。ノ。勝。和。名。集。小。左。奈。郡。の。自
備。田。今。は。そ。と。今。ひ。笠。を。立。づ。ト。大。ト。ソ。ト。シ。ト。カ。フ。
或。右。社。是。在。多。鄰。萬。歲。心。貞。觀。廟。早。水。五。始。御。神。之。深。水。
角。の。舟。し。心。へ。ヒ。ト。

・
古師御室。川湯。全。た。方。一。里。車。廻。記。曰。は。治。大。師
至。山。自。ラ。傍。と。心。り。流。ゆ。川。山。虎。一。を。下。少。浦。之。震。也。
帝。と。海。者。レ。エ。ジ。カ。シ。大。師。御。室。と。全。不。傳。カ。社。坊。
モ。ガ。ラ。

付今上首とし 元亨私書私室海船佐伯文齋

多喜郡の又田公田行り氏禁甚增力懶而有舟在

天保十一年正月六日

脂三月立急九年小生と云

去

